

市長記者会見記録

日時：2014年1月21日（火）午前11時～午前11時44分

場所：本庁舎2階 講堂

- 議題：1 「川崎国際環境技術展2014」の開催について（経済労働局）
- 2 「第10回アジア・太平洋エコビジネスフォーラム」の開催について（環境局）
- 3 低CO₂川崎ブランド'13の認定結果の発表について（環境局）
- 4 川崎メカニズム認証制度の認証結果について（環境局）
- 5 「2020東京オリンピック・パラリンピックかわさきプロジェクト推進本部」の設置について（総合企画局）

<内容>

（「川崎国際環境技術展2014」の開催について）

（「第10回アジア・太平洋エコビジネスフォーラム」の開催について）

（低CO₂川崎ブランド'13の認定結果の発表について）

（川崎メカニズム認証制度の認証結果について）

司会： ただいまより、定例の市長記者会見を始めさせていただきます。

本日の議題は、「川崎国際環境技術展2014」の開催について、「第10回アジア・太平洋エコビジネスフォーラム」の開催について、低CO₂川崎ブランド'13の認定結果の発表について、川崎メカニズム認証制度の認証結果について、「2020東京オリンピック・パラリンピックかわさきプロジェクト推進本部」の設置についてとなっております。1から4まで一括して説明し、質疑応答の後、5番になります。

それでは、市長、幹事社さん、よろしくお願いいたします。

市長： こんにちは。お疲れさまです。

それでは、最初に、今、司会のほうからありました「川崎国際環境技術展2014」及び「第10回アジア・太平洋エコビジネスフォーラム」の開催について、並びに低CO₂川崎ブランド認定結果、川崎メカニズムの認証結果について、それぞれ順番に報告させていただきたいというふうに思います。

国際環境技術展は、本市のすぐれた環境技術による国際貢献と、産業の活性化を目指して、毎年、とどろきアリーナにおいて開催しておりまして、今年で第6回目になります。

今回は、149団体、236ブース、1月17日現在のところでありまして、出展を予定しております。また、中国、韓国、ベトナム、タイ等のアジア諸国に加え、アメリカ、イタリア、ドイツなど欧米諸国にもご出展していただき、国際色豊かなものとなっております。

来場者は、2日間で1万5,000人を見込んでおりまして、また海外関係は約20カ国、200名の参加を見込んでおります。

今回の特徴的な企画につきましてご説明いたしますので、リーフレットの最終面をご覧くださいと思います。

まず、テーマ展示として「世界に羽ばたく川崎」を展開いたします。川崎市と市内企業の環境技術による海外展開事例や、川崎市とかわりの深い海外地域との連携事例を紹介いたします。また、次世代クリーンエネルギーとして、国内外で注目を集めています水素をテーマに、燃料電池自動車（FCV）の紹介や、川崎市の水素ネットワーク構想などをわかりやすく展示いたします。また、今回初めて、水素を利用した燃料電池自動車の試乗会も行います。

続きまして、リーフレット中面、右側をご覧ください。

ステージプログラムでございますけれども、初日の午前中に低CO₂川崎ブランドの認定結果発表を行いまして、続けて、東京工科大学教授、足立芳寛氏による講評と、特別講演「COP19以後の地球環境保全と川崎メカニズム」と題しました講演を開催いたします。

午後には、グリーンイノベーション海外展開事例発表として、川崎市と富士通株式会社平成25年8月に覚書を締結し、連携して取り組んでいるサウジアラビア工業用地公団、通称MODONでの環境技術や、ICTによる国際貢献と産業振興の事例について、富士通株式会社より講演していただきます。また、講演内において、MODONのガンディ局長にサウジアラビアより来日していただき、ご挨拶をいただく予定となっております。

また、2日目には、市内の事業所等による省エネ、創エネの取組を促進し、市内全域において環境技術のショーウィンドウ化を進める「かわさき環境ショーウィンドウ2013」表彰式のほか、環境産業フォーラムとして千代田化工建設株式会社による水素供給事業についての講演なども予定しております。

続いて、ビジネスマッチングのチラシをご覧ください。

本技術展は、ビジネスマッチングを大きな目的としているところですが、昨年度も好評いただきました、事前に商談の予約ができるシステムを今回も稼働させておりま

す。また、英語や中国語の通訳や、海外のビジネス事情に詳しいコーディネーターの手配もご依頼いただけます。国内外の出展者や来場予定者が商談を行う際に、いずれも無料でご利用いただけます。また、今回は、新たにビジネスマッチングサポートゾーンを設けました。ビジネスマッチングに精通する支援団体を一堂に集め、企業様の販路開拓や海外の展開についてトータルでサポートしてまいります。

続きまして、「第10回アジア・太平洋エコビジネスフォーラム」の開催についてご報告いたします。

本市では、国連環境計画（UNEP）と連携いたしまして、川崎臨海部エコタウンでの取組や、市内立地企業のすぐれた環境技術や国内外の情報を交換し、都市と産業の共生に向けて成果を情報共有する場として、「アジア・太平洋エコビジネスフォーラム」を開催し、今回で10回目となります。このフォーラムを通じまして、力強い産業都市と安心のふるさと、この2つの調和によって、子どもたちの笑顔があふれるまちを実現することを目指してまいりたいと考えております。

このフォーラムですが、3日目の午前中に海外からのフォーラムの参加者に技術展に参加していただき、また午後には、会場に隣接いたします市民ミュージアムでフォーラムを開催いたしまして、技術展とさらなる連携の強化を図りました。

海外からは、UNEP-IETCをはじめ、マレーシアからペナン州、ジョホール州、インドネシアからはバンドン市、中国から瀋陽市の行政関係者などが参加をいたします。

UNEP-IETCのシュレスタ所長におかれましては、昨年の秋に就任され、今回のフォーラムで地球環境の現状と課題についてご講演いただくことになっております。また、瀋陽市とは、2009年2月に循環経済発展協力協定を締結して以来、研修生や調査団の受け入れなど、頻繁に交流を重ねてきております。2012年5月には、曾維書記の来川の際に、環境関係5機関の協力に関する覚書を締結したことから、さらにPM2.5などの環境問題の研究の発展につながることを期待しております。

続きまして、低CO₂川崎ブランド'2013の認定結果の発表につきましてご報告させていただきます。

初めに、事業の概要でございますが、低CO₂川崎ブランドは、ライフサイクル全体でのCO₂の削減を中心に、市内事業者の製品、技術、サービスを評価し、広く発信することを通じて、地球温暖化防止を図る川崎独自のブランド認定事業でございます。今年度につきましては、10の製品・技術と1つサービスについて認定を行いました。

また、特にすぐれたものを選定する低CO₂川崎ブランド大賞につきましては、市内で情報通信ネットワークなどの研究開発をしております、株式会社エクサの船舶省エネ運航支援システムを選定いたしました。この技術は、既に30隻以上の内航船に導入されている技術でありまして、現在、外航船にも導入が進みつつあるものでございまして、これまで京都議定書の枠組みでは対象外とされてきた国際海運にかわるCO₂の促進や、日本の海事産業の国際競争力確保に大きく貢献していく技術であることなど、本市が進める環境技術による国際貢献の施策とも合致しているものでございます。

そのほか、ブランドに認定された製品・技術・サービスにつきましても、お手元に配付しております資料の別紙のとおりでございまして、いづれも各社の創意工夫や豊かな発想力を生かした川崎独自の高度な技術によって、CO₂の削減に貢献するものとなっております。私といたしましては、今回、このような制度を通じて、川崎には高度な科学技術が集積していることを改めて認識したところでございます。

次に、川崎メカニズムの取組がLCA日本フォーラム表彰で会長賞を受賞したことにつきましてご報告いたします。

この川崎メカニズムは、国内自治体初の取組として、市内事業者のすぐれた環境技術が川崎市域外で温室効果ガスの削減に貢献している量を「域外貢献量」として評価するもので、今年度から認証制度として開始しているものでございます。

本日、配付している資料にもございますとおり、この制度はこのたびLCA日本フォーラム表彰で会長賞を受賞するなど、製品・技術の環境効率向上による技術革新を追求し、我が国の産業の発展につながる取組として注目をされております。また、制度開始初年度である今年度につきましては、7つの製品・技術につきまして域外貢献量を認証いたしました。

製品・技術と、認証させていただきました域外貢献量は、お手元に配付しております資料の別紙のとおりでございまして、いづれも川崎発の環境技術によって、市内だけでなく、市域外においてもCO₂を削減することで、地球規模でのCO₂削減に貢献するものでございます。

今後も、低CO₂川崎ブランドと川崎メカニズムをあわせて推進することにより、地球温暖化対策を進めながら、力強い産業都市の形成につながる取組を推進することで、持続可能な社会の実現に向け取り組んでまいりたいと考えております。

最後に、この国際環境技術展は、本市の環境技術による国際貢献の取組の集大成として開催いたしますので、ぜひとも皆様にご来場いただき、実際に見て感じていただ

きたいというふうに思っております。

以上でございます。

《質疑》

司会： それでは、質疑のほう、よろしく申し上げます。

幹事社： じゃあ、各社、どうぞ。

記者： すみません。確認、2点お願いいたします。

まず、環境技術展なんですけれども、出展状況、昨年の出展団体とブース等をちょっと確認できますでしょうか。

市長： はい。じゃあ、担当のほうから、よろしいですか。

国際経済推進室担当課長： 昨年の実績のほうでございますが、出展団体は145団体、それからブース数に関しましては242ブースでございました。ブース数は昨年度より多少少なくなっておりますが、団体数としては4団体、今現在では多い状況でございます。

記者： じゃあ、団体数は去年を上回って過去最多ということによろしいですか。

あと、すみません、もう1点。体験型見学会は、もう締め切られていますね。これは1月15日までですから。

国際経済推進室担当課長： 今現在、もう締め切りを行いまして、抽選の段階になっております。大分集まっております、定員をかなり超す応募になっております。

記者： 了解です。ありがとうございます。

幹事社： 市長か、担当課にお伺いさせていただきます。環境に対する取組というのは非常に大事なことで、これは確かにやっていかなければならないことであるんですけども、残念ながら今回の発表からは、これが結局、市民にとってどういう具合に資するのか、市民に何を伝えたいのか、市民のためにどう役立つのかということが、申しわけないけれども、ちょっと見えてこなくて、これはこれですごく意味があって、取組として非常に力を入れていくべきことだと思うんですけども、そこを例えば、記者会見する以上は市民に伝わっていくわけであって、これを通して市民にどういう具合に市として役立っているのか。あるいは、市民がどういうことをすればこういう環境とかにコミットメントできるのか。そういった観点からも発表というか、お話をいただけたら、よりこういう取組をしても、市民の方々にとってみると、ああ、自分たちにも関係あることなんだなと思えるのではないかという具合に思うんですけども、市長、いかがでしょうか。

市長： ありがとうございます。この団体の中で、出展企業の中で、たしか6割を超える企業数だと思いますが、これは川崎市内の事業者であります。そういった意味では、相当多くの環境技術がこの川崎で生まれているということの証左であると思います。そういった意味では、市内の高い技術力が地球環境に貢献できているということ、ぜひこの場を通じてアピールしたいと思います。そして、そういった技術がこの川崎市内に集積しているんだということ、ぜひ市民の皆さんに知っていただいて、誇りを持っていただきたいというふうに思っております。ありがとうございます。

幹事社： わかりました。

幹事社： 先ほどあった去年の実績、川崎国際環境技術展の実績についてお話があったかと思うんですが、ビジネスマッチングのほうはどのような成果が上がっていたかということをお聞かせいただけますでしょうか。

市長： じゃあ、担当のほうからお願いします。

国際経済推進室担当課長： 過去5回の開催を経まして、各種ビジネスマッチングの成果が上がっているところでございますが、具体的に事例を2、3ご紹介させていただきます。

市内企業で、ユニオン産業さんでございますが、こちらのほうの製品が、竹の粉を使った素材で、色々な環境に配慮した、例えば容器製造の原料になるとか、そういった形で、韓国の方の企業と新たに提携が結ばれております。

それから、日本原料さん、これも市内の企業でございますが、こちらがアフリカのモザンビークの方で新たに水のろ過装置の関係で商談が成立していると。

それから、昨年の中では、太陽光発電に関しまして、神奈川県内では民間初のメガソーラー事業というのがこの技術展の商談の中で成約しまして、相模原の津久井湖の近くでございますが、新たなメガソーラーが建設されたというような実績も生まれているものでございます。その他、各種、中国、東南アジアの方でも色々な商談が進んでいるという状況でございます。

幹事社： すみません、それは川崎市さんとしてはどこまで面倒を見られる、面倒を見るというか、マッチングをして紹介して、それでおしまいというような感じですか、それとも、それ以後も。

国際経済推進室担当課長： 色々なかわり方もあるんですが、まずもって民間ベースのビジネスということも当然あるんですが、それ以外に、その後のフォローアップ事業という形では、中国の方の専門家など、私どものカウンターパートのような方に仲介をしていただいて、その後のフォローアップをしたり、JICA、JETR

〇とか、そういう支援団体とのつながりなどを設けて、さらに推進を進めている状況でございます。

幹事社： ありがとうございます。

記者： すみません。低CO₂川崎ブランドなんですけれども、これは何年度にスタートして、大賞は毎回選ばれているのか、あるいは何年ぶり何回目とかになるのか、そのあたりを。

市長： じゃあ、担当から、すみません。

地球環境推進室担当課長： お答えさせていただきます。

低CO₂川崎ブランドにつきましては、今年度で5年目となる制度でございます。大賞につきましては、昨年度から設定しておりまして、今年度で2回目という状況でございます。

記者： すみません、関連してついでに。先ほど市長からお話あったんですけれども、導入実績がどれぐらいか、もう一度、確認のため。ごめんなさい、エクサの船舶省エネ運航支援システムについて。

市長： 30隻以上ですね。

記者： 内航船で。

市長： 内航船で30隻以上。

記者： それで、外航船にも今後。

市長： 今後（さらに導入を進める）ということです。

記者： じゃあ、もう1点よろしいですか。川崎メカニズムがLCA日本フォーラム表彰で会長賞とあるんですけれども、会長賞というのはこのフォーラム表彰の中でトップの賞なのか、何番目の賞なのかとか、あるのでしょうか。

市長： じゃあ、担当からお願いします。

地球環境推進室担当課長： 日本フォーラムの会長賞でございますけれども、その上に経済産業省の産業技術環境局長賞というものがございまして、その次に会長賞という位置づけでございます。

記者： わかりました。

市長： あと、この分野、よろしいですか。

（「2020東京オリンピック・パラリンピックかわさきプロジェクト推進本部」の設置について）

司会： それでは、2番目でございます。

市長： 続きまして、よろしいですか。

司会： はい、お願いいたします。

市長： 「2020東京オリンピック・パラリンピックかわさきプロジェクト推進本部」の設置について、お話しさせていただきます。

本日、2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会の開催に向け、庁内に「2020東京オリンピック・パラリンピックかわさきプロジェクト推進本部」を設置いたしました。この推進本部は、2020年の東京大会の成功に向け、関係都市等との連携強化をするとともに、スポーツ文化や経済の振興などを通じて、本市の発展を図るために設置したものでございます。

お手元の資料に示しておりますとおり、本部構成員としては、私を本部長に、副市長が副本部長、関係局区長を本部員といたしまして、下部組織として関係部長等で構成される幹事会を設置しております。幹事会には、分野ごとに具体的な検討を行うため、複数の部会の設置を想定しております。また、今後、部会を通じて詳細な検討を行うことを予定しておりますが、基本方針の策定に当たり、必要に応じて有識者のご意見もいただきながら、検討を進めたいと考えております。

また、本日午前中には第1回の推進本部会議を開催いたしまして、推進本部の役割や今後の検討の方向性、スケジュールなどを確認したところでございます。

今後の検討の方向性として、資料に示しているとおり、スポーツ文化の普及の取組、円滑な大会運営に資する取組、戦略的なまちづくりの推進、市内への集客、観光客へのおもてなしによる経済振興等の取組、川崎の魅力発信を柱に検討を進め、今週の24日に設立が予定されている大会組織委員会、国、東京都、九都県市首脳会議などの動向を踏まえながら、来年度中に基本方針、平成27年度末には推進計画を策定し、各プロジェクトを推進してまいります。

以上です。

《質疑》

司会： それでは、質疑のほうをお願いします。

幹事社： じゃあ、各社さん、どうぞ。

記者： 市長の中で具体的な、方向性を書いてある項目の中で、こういったことがいいんじゃないかという何かアイデアとかありますか。今、ご自身で何か思っている、こういうのが……。

市長： 本市の環境技術だとか、ライフイノベーションとか、ウェルフェア（イノベ

ーション) というふうにありますけれども、その中でも特にウェルフェアイノベーションみたいなものが、パラリンピックもございますので、そういった観点で川崎市の強みというものが出せればいいかなというふうに思っております。先日、文化大使をしていただいております成田真由美さんもこの席でお話しいただきましたけれども、ハードの面と、それからソフトの面で、こういったバリアフリーのまちづくりをしていくべきなのではないかというようなお話もございましたけれども、こういった機会を通じて川崎の強みを生かしていければというふうに、そういうことを思っております。

記者： 多分、2020年までには、等々力の陸上(陸上競技場)も改修されますし、富士見公園なども整備されると思うんですけれども、国のほうから、例えばスポーツ振興的なものが出るということはあるのでしょうか。

市長： どうなんですかね。今度、(大会)組織委員会が24日に発足して、今後の動きというのは加速度的に色々なものができ上がってくると思うので、その動向を見きわめながらということになると思います。

幹事社： 費用対効果の問題もあると思うんですけれども、川崎に色々な施設がありますが、ある程度焦点を絞って、例えばキャンプの事前誘致やなんかはしていったほうがいいのかと思うんですけれども、今、考え得る、誘致をしてこれるのではないかと、いうスポーツが、もし市長の中でおありでしたら、それをお知らせください。

市長： いや、まだ具体的な話は、今後の、本市だけではなく周りの状況を見ながらになると思います。受け入れられる可能性のある施設は、おっしゃるとおりたくさんあるというふうに思いますので、全体のバランスを見てと。

幹事社： こちらは、来年度予算のところで幾らぐらい計上されているというのはありますか。

市長： いや、まず予算という話ではなく。

幹事社： ないんですか。ただ集まりをつくるという、そういう本部をつくるということですか。

市長： そうですね。はい。

幹事社： じゃあ、各社、よろしいですか。

幹事社： いいですかね。

司会： では、その他、市政一般です。

記者： すみません。

司会： オリンピック? ごめんなさい。

市長： はい、どうぞ。

記者： 市内で推進本部を設置して、外部との、例えば地域ですとか、Jリーグですとか、連携というのはどのようにとっていくんでしょうか。

市長： それも今後の話になると思いますが、5つの柱から枝葉に出ていって、どことどういってお話をしていけばいいのかというのは今後の話になると思います。外部の話といえば、先ほどちょっと申し上げたような、例えば九都縣市だとか、そういったところとの連携というのは、これから情報交換も含めて積極的にやっていかなければならないというふうには思っています。

《市政一般》

（新年度予算について）

司会： じゃあ、改めて市政一般でお願いします。

幹事社： 今日で、おおむね新年度予算の市長査定が終わりになると思うんですけども、福田体制になってから初めての新年度予算ということで、今、どういう状況にあって、市長が公約の目玉として挙げられている待機児童、給食、小学校医療費の無料化、それから日経新聞さんに答えていましたけれどもASEAN関係の話、こういったいわゆる目玉施策に対して、どういう具合にめり張りをつけられているか、おっしゃられる範囲で結構ですので、新年度予算の概要というか、規模、できれば具体的な数字を挙げて、おっしゃられる範囲でお願いいたします。

市長： 今日で一応、市長査定というのが終了いたしました。規模だとか、あるいは内容の詳細については、また改めて発表させていただきたいと思いますが、掲げた公約の全てではありませんけれども、少し盛り込めた部分はあるのかなというふうには思っております。

幹事社： 総額としてなんですけれども、前年度の一般会計ベースで当初予算と比べた場合に、やや上振れするのか、それとも若干へこむのか、どちらになりますでしょうか。

市長： それは、予算のときにまた改めて発表させていただきたいと思います。

（政治状況について）

幹事社： じゃあ、すみません、またちょっと違う質問ですけども、今日の新聞各紙でも色々書かれていましたけれども、いわゆる国政における自民党というのは、今、1強状態で、非常に行け行けでやられているような感じがあるんですが、実際、地方

では、先日の選挙でも、名護であったり、南相馬であったり、この近くでは秦野あたりもそうだと思うんですけども、いわゆる自民党系と言われる候補が次々と敗れているという状況があって、そのあたり、自民党系候補を破った福田市長としてはどのように分析をされていらっしゃるのでしょうか。

市長： 今回の選挙に限らないですけども、私が就任会見ぐらいのときに申し上げたことと、多分、全く認識は変わっていないんですけども、ちょっと国政と地元というか、地域の政治を見ている目というのは、有権者の皆さんは非常に、そこは別物だという冷静な判断をされているのではないかと、そういう印象は持っております。それは、前、申し述べたものと全く認識は変わっていません。

幹事社： 続いてなんですけれども、先ほど市長のほうもオリンピック絡みで九都県市とか色々出てきましたけれども、東京都知事選挙が明後日、告示されるということで、どなたか特定の候補、今、幾つか名前が挙がっていますけれども、まだ正式に立候補宣言をされてない方もいらっしゃいますけれども、その中で応援をしたいと思っ

ていらっしゃるような方というのはいらっしゃいますでしょうか。

市長： いや、特定の候補者については、特に誰か応援をしたいということではありません。ありませんというか、特定の候補者を別に今、誰か想定して応援したいと言っているわけではないですね。

幹事社： 特に要請というか、勝手連的な流れで、どなたかを応援される予定というのは。

市長： 今のところございません。というか、どなたが出られるのか、まだ確定していないというのもあるんですけども。

幹事社： それについてももう1つ伺いたいのは、今、原子力関係、原子力政策が中心に、論点にしようとしている陣営があるようなんですけども、あるようというか、新聞、一部報道にはあるようなんですが、その点について、これは都知事選の争点となるというふうに考えられますでしょうか。

市長： ここ、すごく難しいところで、エネルギー、例えば東京電力の株主、大株主だという意味では、東京都政にもかかわると思うんですが、一方で、それが最大の争点かのようになっているところには、ちょっと私は、自治体の選挙という観点においては若干の違和感というものがあります。

幹事社： ありがとうございます。

どうぞ、各社。

記者： 自民党なり、自民党の相乗り候補を地方で破るという流れをつくった福田市

長なわけですけれども、要するに国政が今の国民が求めている政治をやっていないということで、地域、地方選挙でそのように負け続けているのではないかという見方がありますが、その辺についてはどうお考えでしょうか。

市長： それは、何となく違うような気がしますね。地方は地方の課題について、有権者が冷静に判断しているんだというふうに思っています。

記者： わかりました。

記者： 先ほど、都知事選では脱原発というところが争点というか、ちょっと違和感あるということで、今、隣接する川崎市から見て、都の現状とかでどういったものが求められているというか、争点にするべきだというような、何かありますか。

市長： 争点設定は、おそらく都民の皆さんがされるものだというふうには思いますけれども、隣接している都市からすると、東京都の首長さんがどなたになるのかというのは非常に大きな影響があるところですので、そういった意味ですごく注目していますというか、関心を持って見ております。

記者： ちょっと先ほどに戻ってしまうんですけれども、過去に僕も横浜市長選だとかを取材したときに、当時の市長のところには石原都知事が応援に来たりという場面を見たりしているんですけれども、要請があれば市長も、どの陣営からかわかりませんが、要請があればはせ参じることはあり得るんですか。

市長： おそらくないと思いますが、そのようなことが仮にあったら、その時点で考えたいと思います。

記者： 都知事選で反原発を争点とするというのは、東京都が個人、企業、工場を含めて最大のユーザーであると。川崎も、企業、個人を含めれば非常に大きなユーザーであるわけで、じゃあ、これだけの電力をくださいといったときに、それが必要だから、やはり原発を動かしてくれというふうに頼むのか。もしくは、こういう状況で福島事故も起きたから、原発なしの電力で何とかお願いしたいと言うのか、というところも川崎市の市長としては聞かれてくるところだと思うんですけれども、その辺のお考えはありますか。

市長： うーん……。当然、エネルギー政策の一端のことは、今、おっしゃるような関係もあるので、かかわりはあると思いますが、国政でのエネルギー政策というものは一義的には国の問題だというふうに思っております。

記者： 国の政策という意味で、名護市長選の話では、いわゆる普天間の移設について反対派の市長が当選されました。国の方針、外交だとか、安保というのは国の専権事項だと思うんですけれども、国の方針と違う地方の首長が当選されて、今後また、

混乱と言っていいのかわかりませんが、国対地方という部分が非常にクローズアップされると思うんですけども、名護市長選について、いわゆる市民の選択と国の方針との違いということに関して、市長はどのように見ていらっしゃいますか。

市長： 昨日、おとといでしたっけ、おとといからずっと一連の報道などを見ていますと、そもそも沖縄の名護の特殊性というか、沖縄の特殊性があるので、ほかの地域の国と地方の関係と一概に対比できるのかということ、ちょっと違う気がします。外交と地元住民のものをどう両立させていくかというのはものすごく難しいなという見方を、この数日しています。何が、どちらがいいとか悪いとかいう話ではないので。

記者： 国のほうが、粛々と今までの方針どおりやっていくというような表明をされていますけれども、その辺、地元住民への配慮というか、国は今後もこのまま突き進むべきというようなことは思いますか。仕方ないというか。

市長： それぞれの権能と責任のもとに、私はやるべきだと思うんです。

幹事社： すみません。1つ戻りますけれども、原発政策についてなんですが、市長ご自身としては、原発に対するスタンスというのはどういうふうにお持ちでしょうか。即時ゼロから、いずれゼロから、やっていくべきだというような色々なご意見があると思うんですが。

市長： 原発に頼らないことが私は望ましいというふうには思っています。ですから、とにかくなるべく早く頼らないような技術革新ができれば望ましいというふうには思っています。

幹事社： 即時ゼロということではないですね。

市長： そうですね。

記者： 関連してなんですけれども、臨海部に再生可能エネルギー関連の事業が進んでいる中では、国のエネルギー基本計画の今の方針についてはどう思われますか。

市長： うーんと、ごめんなさい。

記者： 従来どおり、原発をとというスタンスでまとめようとしているエネルギー基本計画。

市長： ごめんなさい、僕、ちょっと不勉強で、基本計画がどう具体的に記載しているのかというのが、ちょっと私、不勉強なものですから。

幹事社： 市長が先ほどおっしゃられた、原発に頼らないことが望ましいというのはリスクがあるということでしょうか。

市長： 今回の福島原発の事故を見ても、100%安全かと、絶対的に安全なのかと

いう安全神話がある意味崩壊したわけですから、全てのことについては、原発も、火力発電も、あらゆるところにはリスクがあるんだと思います。ただ、そのリスクの部分というのが、原発というのは通常のエネルギーのものとは半端がないことは全国民が知ったわけじゃないですか。そういった意味で、そういうものに頼らないほうが望ましいというふうには思いますが、一方で現実的なものというのとも考えなければならぬというふうに思っています。

幹事社： ありがとうございます。

幹事社： 今のお話で申し上げますと、都知事選で仮に応援するとしても、舛添さんとかが今、おっしゃっていることと同じような、少なくともその政策については、単純比較ではないですけれども、そのようなイメージがあるんですが、じゃあ、ほかの方々とは相入れない、例えば具体的に細川さんであるとか、宇都宮さんとは相入れない部分ということですよ。

市長： その原発の政策だけをとればですね。ただ、原発だけ、先ほどからちょっと申し上げているとおり、都政の話というのは、だから僕は都民にとってはあまり望ましくないんじゃないかと思うんです。この想定、設定がですね。それが都政の最大の課題なのかという、これから、それこそオリンピックだけじゃない、生活関連とかがいっぱいあるじゃないですか。これから高齢化していく中で、都市部の高齢化の話というのは東京が一番深刻になるというのはもうみんなわかっている話で、そんな話が知事選の中でどう出てくるのかというのは、私はちょっと注目したいと思います。それから、本市に関係あるインフラの話なども、当然これ、隣の市としてはものすごく関心を持って見ております。そういった議論が少なされると、ありがたいというか、そういうものが抜きに選挙が戦われるというのは、他の都市のことをああだ、こうだ言うのはちょっと越権かもしれません。

記者： ただ、高齢者なり、保育所なりは圏域を関係なく動く話なので、そういう首都圏なり、都市部の問題を共通して考えられる候補者の方がいれば、応援にも行こうかなと、そういう感じでしょうか。

市長： その応援云々の話は、先ほど申し上げたとおり、万が一そういう依頼があれば総合的に判断したいというふうに思います。

記者： 都知事選とちょっと違いますが、今日、実中研のほうでまた囲みをやらせていただきますけれども、視察に菅官房長官が来られますが、先週にも福田市長、菅さんのところに、東京のほうに行かれてお話をされているみたいですが、そのときはどういったお話をされたんでしょうか。

市長： 前回の菅官房長官にお会いしたときは……。

記者： 先週。

市長： 先週は、就任の挨拶です。

記者： 市長の就任の挨拶。

市長： はい。

記者： ようやくという。

市長： そうですね。初めてちゃんとお挨拶できましたので。

記者： 何か具体的に、もう本当に挨拶で終わりというか。

市長： そうですね。これから色々な面でお世話になりますと。

記者： 向こうからは、何か言葉はありましたか。

市長： 色々ありましたけれども、そこは相手のあることですから控えさせていただきます。

記者： 何か披露できるものがあれば。ライフの、いわゆる国家戦略特区の選定とか、そういうことに対しての要望だとか、そういったものはされたんでしょうか。

市長： いや、それは。逆に、今、選定中の話なので、あえて控えさせていただいております。

記者： そのときも、菅さんからそういう話は出なかったんですか。特区については。

市長： 今、進めているライフイノベーションみたいな形については、色々ご協力、この前いただいた部分もありますので、税制措置などについてはお礼を申し上げました。

記者： 菅さんのほうからは特に何か。

市長： それは控えさせていただきたいと思います。

記者： そうですか。わかりました。いや、期待するとか何かこうね、何かあるかなと。

市長： いやいや。

記者： わかりました。

幹事社： 今日の視察は、そのときに決まったのでは……。

市長： いえいえ、全くそうではないみたいです。もともと決まっていた話のようです。

幹事社： もともと決まっていたんですか。

市長： その詳細は、私は存じ上げません。

幹事社： わかりました。

記者： すみません、1つ確認なんですけれども、去年は予算発表前に概要説明、概要発表があったんですけれども、今回はそれは予定されていますか。大まかな、特に……。

市民情報室長： 今回は、予算編成作業が押していますので、概要発表はしないで一発で。

記者： じゃあ、一発ですね。

市民情報室長： はい。

記者： わかりました。

市民情報室長： よろしくお願ひします。

幹事社： じゃあ、よろしいですか。

司会： では、よろしいですか。

それでは、以上をもちまして市長記者会見を終了します。どうもありがとうございました。

市長： ありがとうございました。

(以上)

この記録は、重複した言葉づかい、明らかな言い直しや質問項目などを整理したうえで掲載しています。

(お問い合わせ) 川崎市役所総務局市民情報室報道担当

電話番号：044(200)2355